

コミュニケーション

JJ1SXA 池

Communicationとは、辞書によると、「社会生活を営む人間が互いに意思や感情、思考を伝達し合うこと、言語・文字・身振りなどを媒介として行われる」とありました。

「コミュニケーションを持つ」「コミュニケーションの欠如」とか言われますが、「コミュニケーション」は、情報の伝達、連絡、通信の意だけではなく、意思の疎通、心の通い合いという意でも使われるようです。

「コミュニケーションを取る」は双方が一方向的に話すのではなく、双方が互いに理解し合うことであろうし、「コミュニケーションが無い」という場合は、会話が成り立たない、気持ちが通わない関係をいうのであろうと思われまます。

「阿吽の呼吸」というのがあります、これも辞書によると、2人の人物が呼吸まで合わせるように共に行動しているさまとありました。

さて、「阿吽」ですが、「阿吽」は仏教の呪文(真言)の1つであり、梵字において、阿は口を開いて最初に出す音、吽は口を閉じて出す最後の音であり、そこから、それぞれ宇宙の始まりと終わりを表す言葉とされたとのこと。

また、宇宙の他にも、前者を真実や求道心に、後者を智慧や涅槃にたとえる場合もあり、次いで、対となる物を表す用語としても使用されるようです。

寺院の入口等にある「仁王像」は、金剛力士であり、仏教の護法善神(守護神)である天部(密教における神々)の一つということで、開口の阿形像と、口を結んだ吽形像の2体を一対として造像するのが原則であるとのこと、阿形像は怒りの表情を顕わにし、吽形像は怒りを内に秘めた表情に表わすものが多く、左側が阿形像、右側が吽形像です。

これに比し、神社の入口の両脇等に一対で置かれている狛犬は、一般的には、向かって右側の像は「阿形」で、角はなく口は開いている、そして、向かって左側の像は「吽形」で、一本の角があり口を閉じている、犬に似た想像上の獣の像で、両方の像を合わせて「狛犬」と称することが多いが、厳密には、角のない方の像を「獅子」、角のある方の像を「狛犬」と言い、一対で「獅子狛犬」と称するのが正しいとされているそうです。

わが故郷の佐渡が島の多くの寺には、「仁王像」がありますが、小学生の頃、先生に「仁王像」について「片方は女ですか？」と質問したことがあります、「あんな筋肉隆々の女がいるか」と一喝されましたが、ひるまず、「でも片方の仁王様は口をつぶっているよ」と言ったら、「おー良い所に気がついた」と、延々と能書きを垂れられましたが、前記のような内容だったのでしょ…低学年の小学生に、全部理解できるわけは無く、分かった振りして聞いていました、ただ、最初は一喝されたが、丁寧な説明をしてもらったとの良い記憶が残りました。

「コミュニケーション」の話が大分それてしまいましたが、「コミュニケーション」は大事なことであり、240の多くの仲間や、その他の友の誰とでも、あらゆる機会を通じてわかりあい、究極には「阿吽の呼吸」で全て分かり合える、そんな関係でありたいものと思っています。